

営農ファイル

農産園芸部門

農作業メモ

ハウス胡瓜

日長が長くなり日差しが強くなります。日中の換気を行い、ハウス内の湿度を下げてください。特に夜間は湿度が高くなりやすいので、循環扇や暖房機を活用し湿度が滞留しないようにしてください。また、葉ヤケ・果ヤケ対策として2重ビニールを活用し、遮光を行ってください。

曇雨天の場合は雨間をみて、ハウス各部の開閉を行いながら暖房機を使用し、ハウス内の湿度をできるだけ下げてください。急な湿度変化は注意してください。

朝の最低気温をみて天井の2重ビニールの被覆を行ってください。

灌水は少量多回数に努めてください。(夕方まで通路に水が溜まらない事)病気(べと病・うどんこ病・灰色かび病)、害虫(スリップス・アブラムシ等)の定期的防除を行ってください。樹勢の低下により、病気の

発生が多くなりやすいので、定期的な予防防除を行ってください。

スイートコーン

○膝高期(葉数6〜7枚)

この時期は雌穂の粒列や1列の粒数を決定する時期で気象の影響を受けやすく、蒸し込みによる高温は禁物。換気が重要な管理となります。追肥時期でもあるので10a当り/NK7号 1回目40kg 2回目20kg追肥。

○除草剤

ブルーシアフロアブル希釈倍数2000倍 イネ科雑草(メヒシバ、イヌビエ等)広葉雑草(イヌホウズキ、イチビ等) 12日前後から効果ができます。全面散布、収穫45日前まで。1回。

ニラ

気温も少しずつ上昇し、ハウス内に湿度がこもりやすくなってきました。こまめな換気を行ってください。白斑葉枯病の発生を助長する原因となります。急激な温度変化が懸念されます。前もった準備を行い、対応出来るようにしてください。

気温上昇に伴い、害虫も動き出します。早めの防除を行ってください。

トマト類

整枝、摘葉管理を重点的に行って

ください。後半に葉枝の混みにより管理が出来なくなり、5月の出荷量に影響しますので管理作業が遅れないよう十分注意してください。

引き続き、疫病、カビ類、コナジラミの予防防除に努めてください。その際、抵抗性回避の為に同じ剤を続けて散布するのは避けてください。

イチゴ

灌水は少量・多回数灌水を基本とし、土壌水分を一定に保ち極端な管理を避け灌水不足による乾燥、チツプバーンの発生を防ぐように管理してください。

液肥は、出来るだけ有機液肥を主体として施用し、発根促進剤の施用も併せて行い、根の張りを促してください。地温が上昇する2月下旬頃より草勢が旺盛になるので、それに応じて液肥を施用してください。病害虫の発生が増えてきます。早めの予防に努め、場合によっては生物的防除から科学的防除に切り替えましょう。

びんご

ビニール被覆は時期が遅れないよう早めに計画を立てて実施してください。

芽かき：芽かきの時期は遅れると養分の浪費と先端部の芽が強く伸び

て基部の芽が貧弱になるので、展葉1〜2枚の時と結果枝誘引時の2回に分けて行ってください。

防除の徹底

時期 3月中旬〜下旬

○害虫：アカガネサルハムシ・コガネムシ成虫

○病害：晩腐病・黒とう病・べと病・褐斑病

きんかん

収穫終了後はサイドビニールを巻き上げ、温度を下げて(20℃以下)管理してください。灌水は、たつぷり行い樹勢回復を図ってください。また、落葉が激しい場合については、窒素主体の葉面散布と速効性肥料での礼肥を行ってください。

剪定は、3月いっぱい(遅くとも4月上旬まで)で終わらせてください。

※剪定残渣は、病害虫の発生源になる為、粉碎機で細かく粉碎するか、園外に持ち出してください。

剪定後の肥培管理については、完熟堆肥を4月中旬に10a当たり2〜3t施用してください。収穫中の園地については少量多回数の灌水を実施し、果実の萎れ等が発生しないよう注意してください。